

ながおか 市政だより

1991
10
No.446

編集・発行/長岡市広報課 〒940 長岡市幸町2丁目1番1号 長岡市役所 ☎0258-35-1122

平成3年10月1日発行



この緊張感がたまらない！

ゴルフのパットが延々と続くような、ゲートボールの試合。選手はまさに真剣そのもので、見ても息がつまるほどの緊張感です。この日行われた市民体育祭ゲートボール大会には、市内の70チーム、500人が参加。まだ暑さの残る初秋の空のもと、熱い戦いをくりひろげました。

(9月8日、河川公園にて)

主な内容

- ハイブ長岡10月16日オープン
- 米百俵の群像が完成
- 「花と緑」がテーマの作品の入賞者発表
- 宇宙学会を長岡に誘致
- 越後ながおか銘産会が発足

北米原産のキク科植物。
渡来年代は明治初期ころか、かなり古
い。昭和に入って日本全土に広がり、近
年長岡地域でも空き地、線路わき、川べり
などで多く見られるようになった。
花粉病の原因となる有害植物なので家
の近くのものは駆除が望ましい。



ブタクサ

NAGAOKA
ナガオカ ネイチヤー スコープ

10月 自然観察 ⑤

ハチの幼虫を好んで食べることからこの名がある。トビとほぼ同大のタカで、低山で繁殖を終えると、10月には東南アジア方面への渡りに入る。澄んだ秋空を高く輪を描きながら次々に渡るタカの渡りは、秋本番を感じさせる。



ハチクマ

助け合いの輪をひろげよう
ともしひ運動

全国身障者スポーツ 大会をめざして特訓

全国身体障害者スポーツ大会が、10月26、27日の2日間、石川県・金沢市と松任市で開催されます。障害をもつ人の国体ともいわれているこの大会は、毎年秋期国民体育大会が開かれた会場で開催されるもの。今年で27回を数えます。

大会には、長岡からも4人の選手が参ります。そのうちの3人は県立長岡聾学校の生徒たち。大会前約1か月の選手たちの表情をお伝えしましょう。

9月19日、取材のこの日はあいにくの雨。陸上部の練習は、陸上競技場から屋内体育馆に切り替えられました。柔軟体操にスタート練習、もも上げと続いて、選手たちの息づかいがしだいに荒くなっています。

スタートの音を聞きとれない生徒に、手振りで合図を送る安藤正信先生。先生の手元には、選手たちの真剣な視線が注がれています。

大会に出場するのは、長谷川征行くん、佐藤良幸くん、山田勝美くんの3人。それぞれ、トラック競技のほかに、走り幅跳び、卓球、やり投げで晴れて全国に挑戦です。

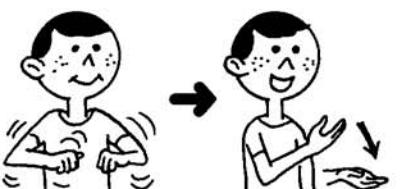
聾学校では、全校生徒約90人のうち、半数以上が寄宿舎生活を送っています。この



3人も小さなころから共同生活を送る仲間同士です。3人は「何とか3位以内に入ってメダルを持って帰りたい」と意欲をのぞかせていました。

このほか大会には、400メートル走とやり投げで加藤修一さん（城岡3）が出場します。4人そろって、今までの練習の成果を十分発揮してくれることでしょう。

手話をおぼえよう



お元気ですか？

ボランティアのお問い合わせは
福祉課障害活動係 ☎39-2217
長岡市社会福祉協議会 ☎33-6000

市長
萩の花
随想

<68>

十七号が過ぎて、朝夕のかすかな涼風に、深まりゆく秋の気配を感じられるようになります。夏を耐え忍んできた庭の木も、そよ吹く風によぎ、葉はつやかさを増し、蔓はとこそましと繁茂してきました。これ生氣を取り戻したと言えば、萩は優美な紅紫色の花が咲き始めました。枝もたわわに咲き乱れた様は、秋の七草の筆頭にふさわしく見事でありました。可憐な花葉がしなやかにたわみ秋風に揺れこぼれる風情は、深まりゆく秋を一段と感じさせます。萩と言えば、いやでも思ひ浮かぶ俳句は芭蕉が市振で詠んだ、「家に遊女も寝たり」と感じさせます。山ありますか、その中で萩の花はもつとも多く、梅や松より詠まれています。それだけに古くから日本人に愛され、

肩すかしを食わされた台風しさをうたっています。また、この頃になると、燃えようかな真紅の花を力強くつける鶴頭の、堂々たる風格に目をうばわれることがあります。美しいコスモスも目を楽しませてくれています。秋の花は、夏の暑さを耐え忍んだだけに、一段と美しく咲くのでしょうか。今年は夏から秋にかけて、長岡の子供たちの活躍に、目をひらくものがありました。子供たちはそれがとてもたくさんのあります。親しまれてきたのでしょう。夏目漱石は「行けども萩行けども薄の原庄」と、広い野原の自然の中での萩の花、薄の穂の七草の双璧のすばらしさをうたっています。

日 潟 晴 三 協

産業と文化の

新しい出会いの舞台

►大展示ホールは、さまざまな展示会や見本市、各種大会、集会など、大規模なイベントに対応できるよう設計され、いろいろな企画、演出にも応えられる舞台設備や音響装置を備えています。天井の高さは15m、広さは厚生会館大ホールのおよそ2.5倍で、いす席にして約6,500人が収容できます。

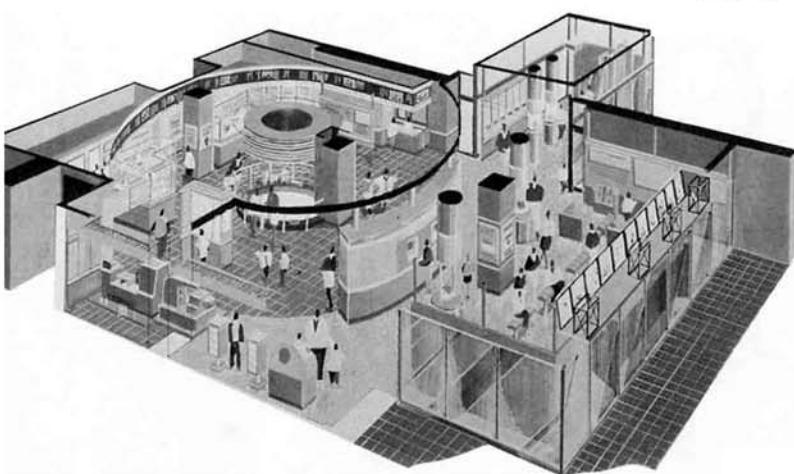
さらに、駐車場兼用の屋外展示場と一体的に利用して、技術フェアや自動車ショーなど、多彩な催しに活用されます。

2階には国際的なシンポジウムやセミナー、各種会議などが開かれる特別会議室があります。ここは4か国語の同時通訳設備や映像装置を備え、国際会議場としても利用されます。そのほかレセプションやパーティーなどにもゆったりと利用できます。



長岡市産業展示室

►長岡のまちを築き上げてきた産業の移り変わりや未来の姿を、パネルや模型、映像、実物などで展示紹介します。入口では火焰土器のレプリカとレーザー光により、いまも燃え続ける技術と産業の情熱の炎をイメージ。シンボルゾーンでは直径3mの円形スクリーンに、長岡市の自然風土をおりこみながら、産業の移り変わりを多面映像で上映します。また、模擬工作機械で遊んだり、テレビ画面に向かってQ&A。長岡の産業について楽しみながら体験、学習できる仕掛けがいっぱいです。



新・長岡物語

長岡産業まつり

今年もやってきました産業まつり！長岡の風土が育んできたさまざまな暮らしを彩る名物、物産の一つ一つが物語の主役です。いろんなお店が自慢の商品をひつさげて大集合。楽しい催しもたくさん用意しました。ご家族おそいでお越しください。

家具と伝壇の巻
色と艶は伝統の賜物。
歴史の重みこの逸品に。

菓子の巻
これは新し、ああ懐かし、
甘辛両党感激のふるさとの味。

酒と調味の巻
水と空気が育んだ。
人の知恵が練りあげた。

※全国伝統的工芸品伝壇伝道具展も同時開催します。

●楽しい催しもいっぱい！
長岡最大、大抽選会
…すてきな景品が盛り沢山
10月26日(土)～27日(日)
午前10時～午後5時
ハイブ長岡 大展示ホール



新技術、新製品の研究開発に取り組んでいる各種機械、電子機器メーカーの製品を一堂に展示紹介します。
高度な工業技術をあなたの目でお確かめください。

会場
10月19日(土)～21日(月) 午前9時～午後5時
ハイブ長岡（全館） 入場無料

展示内容
産業機械、工作機械・器具、新素材機器、電子機器
・部品、F・A・Oシステム関連機器等

※高校生のエレクトロニクス関連作品展、NHKハイビジョン
公開展示、無料特許相談会もあわせて行います。

信濃川テクノフェア

また、ハイブ長岡の中に一緒にオープンする長岡市産業展示室は、だれもが遊び感覚で長岡の産業の移りかわりを体験、学習できる楽

役割もはたす施設です。

また、ハイブ長岡の中に一緒にオープンする長岡市産業展示室は、だれもが遊び感覚で長岡の産業の移りかわりを体験、学習できる楽

い」の空間をつくり出す、そんな

役割もはたす施設です。

また、ハイブ長岡の中に一緒にオープンする長岡市産業展示室は、だれもが遊び感覚で長岡の産業の移りかわりを体験、学習できる楽

い」の空間をつくり出す、そんな

情報化、国際化の波が広がる中で、長岡市でも産業、経済、科学技術、教育、文化など、あらゆる分野でさまざまな交流が活発になっています。そして、それにともなって大規模な展示会や見本市、シンポジウムなどの開催の場が求められてきました。

ハイブ長岡は、このような新しい交流の時代に対応して、大規模な展示ホールと国際会議ができる特別会議室を中心に、産業と文化の出会いの舞台として誕生します。

さらに、千秋が原を訪れる多くの人たちが集い、交流する「にぎわい」の空間をつくり出す、そんな

ハイブ長岡は、このような新しい交流の時代に対応して、大規模な展示ホールと国際会議ができる特別会議室を中心に、産業と文化の出会いの舞台として誕生します。さらに、千秋が原を訪れる多くの人たちが集い、交流する「にぎわい」の空間をつくり出す、そんな

ハイブ長岡は、このような新しい交流の時代に対応して、大規模な展示ホールと国際会議ができる特別会議室を中心に、産業と文化の出会いの舞台として誕生します。さらに、千秋が原を訪れる多くの人たちが集い、交流する「にぎわい」の空間をつくり出す、そんな

ハイブ長岡は、このような新しい交流の時代に対応して、大規模な展示ホールと国際会議ができる特別会議室を中心に、産業と文化の出会いの舞台として誕生します。さらに、千秋が原を訪れる多くの人たちが集い、交流する「にぎわい」の空間をつくり出す、そんな

ハイブ長岡は、このような新しい交流の時代に対応して、大規模な展示ホールと国際会議ができる特別会議室を中心に、産業と文化の出会いの舞台として誕生します。さらに、千秋が原を訪れる多くの人たちが集い、交流する「にぎわい」の空間をつくり出す、そんな

●千秋が原への交通は、路線バスで、長岡駅から「ハイブ長岡行き」(十月十六日から運行)または「江陽団地行き」があります。

「千秋が原ふるさとの森」整備事業の第一号としてオープンするハイブ長岡。この施設の完成によって千秋が原には、都会的な活気と、にぎわいが生まれてくることでしょう。

ハイブ長岡の概要

建設位置
構造規模
主な施設

千秋が原ふるさとの森（長岡大橋西詰め）
鉄筋コンクリート造り一部3階建て 延べ床面積 9,891m²
大展示ホール 3,481m² 特別会議室（けやき）600m²
エントランス・ホール 634m² 長岡市産業展示室 386m²
小会議室（6室）、交流サロン、交流ロビー、商談室（2室）、控室（2室）、同時通訳室（4室）、レストラン、自動販売機コーナー、売店 その他
総事業費 33億9千万円（用地費、外構整備費を除く）



産業と文化の交流施設——ハイブ長岡（長岡産業交流会館）が、千秋が原にまもなくオープンします。信濃川のほとりに広がる豊かな水辺の空間、千秋が原。ここは、ふるさとの森として「にぎわい」と「うるおい」の空間づくりが進められています。その第一号事業として完成するハイブ長岡。すでにオープンにあわせて催しもの面白押し。楽しい開館記念イベントも行われます。家族そろってぜひお出かけください。

米百俵の群像

いよいよハイブ長岡がオープンする「千秋が原ふるさとの森」。そのシンボルとなるのが、ふるさと創生1億円事業でつくるケヤキ並木と「米百俵の群像」。すでに完成した群像は10月16日の公開日を今か今かと待ちこがれています。



「米百俵の群像」は、山本有三の戯曲『米百俵』を歌舞伎座で上演したときの一場面を、ブロンズ像で再現したもの。

原型を作成したのは、長岡市美術協会彫塑部門の委員をつとめる六人のみなさん。群像は全部で十二体あります。立像は高さ二メートル余り、重量は平均一トンあります。背景には、刀をイメージした石柱が立てられています。

◇ 長岡を語るとき、戊辰戦争とともに必ずふれられるのが「米百俵」の故事です。戊辰戦争直後の学校設立にまつわる話、それもたった一年でなくなってしまった学校の話が、なぜこのように語りつがれるようになつたのでしょうか。

山本有三の名作「米百俵」

「米百俵」を有名にしたのは、昭和十八年に出版された戯曲『米百俵』だといわれています。作者山本有三は、創作の動機をつぎのように語っています。

「こういう焼け野が原のなから、どうしてこんなに人物が出たのであるか、私はここに疑問を持ったのであります。官軍に歴向かつた藩でありますから、手づるなどというものが

慶応四年（一八六八）五月に始まつた新政府軍との戦いは、長岡の敗北で終結しました。多くの人々が命を落とし、家や財産を失い、まちは焼け野原となりました。長岡城下一千九百四十七軒のうち二千六百八軒が焼けたと記録にあります。そのうえ大洪水による凶作も重なり、藩の禄高も三分の一に減らされました。人々は食うや食わずの生活を余儀なくされました。

こうした貧困と混乱のなか、敗戦の翌年（明治二年）五月に、小林虎三郎によって国漢学校が開校されました。校舎は焼け残った四郎丸の昌福寺本堂を借り、秋には、現在の大和アパート付近で校舎の建築になりました。校舎は焼け残った四郎丸の昌福寺本堂を借り、秋には、現在の大和アパート付近で校舎の建築になりました。

のようすを、大日本帝国憲法制定に参画し長年行政裁判所評定官をつとめた渡辺廉吉は、のちにこう書きとめています。

「時の藩知事即ち殿様が御臨席になつて、小林虎三郎さんが『大学』の講義をされた。殿様から二、三間の前に藩の重立初め縊羅星の如く居並ぶところに、ひげムシャムシャの小林さんが袴を着けて、莊嚴なる御前講義を試みられたのは、いかにも偉観を極めたもので、今なお眼前に髪剃たる想いがする」

この国漢学校も、廢藩置県にともない明治四年に廃校となってしまいました。昌福寺時代から数えてもわずか二年の歴史でしたが、その伝統は長岡洋学校・長岡中学などへと受けつがれていました。

群像によみがえる 「米百俵」の人々

戯曲にあるよつた、刀を抜いて虎三郎に抗議した藩士が、じつさいにいたかどうかは不明です。
でも、群像の前に立つと、苦しい胸のうちを叫ぶ藩士たちの声、せつせつと説く虎三郎の声が聞こえてくるような気がします。それはまた、すべてを失いながらも必死で立ち上がりうとする人々の、うめきと希望の声のようにも響いてきます。



届けられた百俵の米

翌三年の春、長岡の窮状を見かねた分家の三根山藩から、見舞いとして百俵の米が届きました。小林虎三郎や三島億二郎らによる藩の方針は、つぎのようなものでした。

「三根山藩からわが藩に見舞いとして米百俵が贈られてきたが、それには米を配給しているのでなんとか生活できるはずである。よつてこの米は、文武両場（国漢学校と付属の演武場）に必要な書籍、器具の費用に充てることにする」

こうして明治三年六月十五日、国漢学校は、晴れて新校舎の開校式を迎えることになりました。このとき町が栄えるのも、ほろびるのも、

ぱならないのだ。そこから築きあげてゆかぬ限り、長岡は本当に息を吹き返すことができないのだ。

あの時、先の見えた人物がおりさえしたら、同胞はお互に血を流さないでもすんだのだ。町は焼かれはしなかったのだ——そう思うと、おれはつくづく「人だ」「人物だ」と考えないと、いられないのだ。国がおこるのも、ほろびるのも、

町が栄えるのも、衰えるのも、ことごとく人にある。

だからおれは、この百俵の米をもとにして、学校を立てたいのだ。この百俵は、今でこそただの百俵だが、後年には

いわく、この百俵になるか、百万俵になるか、はかり知れないものがある。

